（贈歌）

藤浪（ふじなみの） 咲春野（さくはるのの）尓（に） 蔓葛（はうくずの） 下夜之（したよし）戀者（こいば） 久雲在（ひさしくもあらん）

（万葉集　詠み人知らず）

恋は、藤の花が波打って咲く春の野のように 心が波打つけれど、葛が木々に隠れて延びるように、密かな恋を続けたとしても、なかなか成就はしないものだよ。さあ、勇気を出して僕のもとへ。

（返歌）

香織（かおり）ゆく 葛紅（くずくれない） の 散らぬ間に 夏の葉陰に 恋ぞ見てかし

令和五年八月二十三日　　大中臣正比呂　代筆

葛の花が良い香りでしょう？　あなたとの時を織りなし、もう夏ですよ。早く見つけてよ、わたしのことを。秋になれば散ってしまうわ。